

抗 Nup62 抗体, ラット モノクローナル (2A11)

70-305 200 µg

保存: 4°Cまたは-20°Cで送付、-20°Cで保存

抗原: リコンビナント・ヒト Nup62 (アミノ酸 No. 1-300)タンパク質 (GST-Nup62-His)

エピトープ: アミノ酸 No.1-179 (FG-repeat 領域)

アイソタイプ: ラット IgG1κ

形状: 精製モノクローナル抗体 (IgG) 1mg/ml in PBS-, 50% glycerol, 濾過滅菌. アザイドやキャリアータンパクは含まない。

反応性: ヒト、サル。他の種は試していない。

用途:

1. ウェスタンブロッティング (60 kDa の単一バンドとして検出)
2. 免疫細胞染色
3. ELISA

他の用途は試されてない。

背景: 核膜孔複合体 (NPC : nuclear pore complex) は核膜に隔てられた核質と細胞質との間の物質輸送を司る巨大分子複合体であり、ここを通過して高分子の核—細胞質間輸送が行われている。Nucleoporin (ヌクレオポリン) は真核細胞における核膜孔複合体の主成分である。**Nup (Nucleoporin) 62** は FG-repeat 含有ヌクレオポリンに属し、核膜孔中央の栓構造に局在する。このタンパク質は核局在化シグナルを持つタンパク質の移行にかかわる importin α/β 複合体と結合する。

この抗体は無血清培地で培養されたハイブリドーマの培地より propriety chromatography などのマイルドな方法により精製された。

データリンク: Swiss-Prot [P37198](#)

文献: この抗体は文献 2 において作成され、文献 2、3 において使用された。

1. Hu T *et al* “Molecular and functional characterization of the p62 complex, an assembly of nuclear pore complex glycoproteins.” *J Cell Biol* **134**: 589-601 (1996) PMID [8707840](#)
2. Fukuhara T *et al* “Functional analysis of nuclear pore complex protein Nup62/p62 using monoclonal antibodies.” *Hybridoma* **25**: 51-59 (2006) PMID [16704304](#)
3. Maeshima K *et al* “Cell-cycle-dependent dynamics of nuclear pores: pore-free islands and lamins.” *J Cell Sci* **119**: 4442-4451 (2006) PMID [17074834](#)

次ページへ

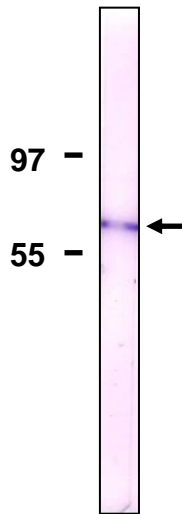


図 1
2A11 抗体を用いたウエスタンブロッティング
による Nup62 の検出
サンプルは HeLa 細胞核膜分画

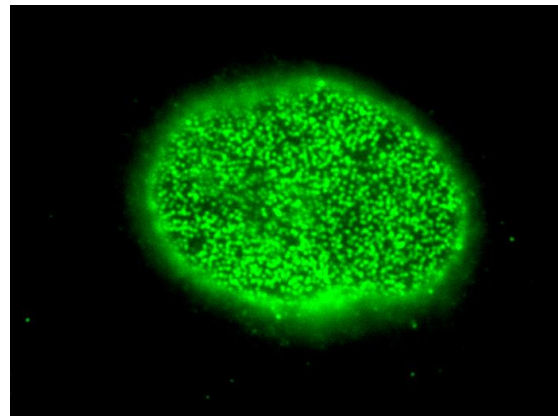


図 2
2A11 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色
この抗体を HeLa 細胞の細胞質に注入すると核膜孔に集積した。